

消防参第123号

令和7年7月25日

各都道府県消防防災主管部長 殿

消防庁国民保護・防災部参事官

(公 印 省 略)

第28回全国消防救助シンポジウムの開催について（通知）

標記シンポジウムを下記のとおり開催しますので、貴都道府県内の消防本部及び消防防災関係機関へ周知いただき、参加者及び事例研究発表希望者の取りまとめについて御配慮ください。

記

- 1 日時
令和7年12月11日（木）10時30分から17時00分まで
- 2 会場
銀座ブロッサム中央会館
東京都中央区銀座2丁目15番6号
- 3 テーマ
「火災時における救助活動対応能力の向上」
- 4 開催要領
別紙のとおり

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部参事官付救助係

田中係長、井上事務官

TEL: 03-5253-7507

E-mail: fdma.kyuujo@soumu.go.jp

第 28 回 全国消防救助シンポジウム開催要領

1 目的

本シンポジウムは、全国の消防・救助隊員、消防学校関係者、都道府県消防防災関係者等を対象とし、救助技術の研究開発及び消防活動事例の発表や意見交換を行うことにより、救助技術の向上及び救助隊員相互の交流と親睦を深め、我が国における救助体制の一層の充実を図ることを目的とする。

2 日時

令和 7 年 12 月 11 日（木）10 時 30 分から 17 時 00 分まで

3 会場

銀座プロッサム中央会館
東京都中央区銀座 2 丁目 15 番 6 号

4 テーマ

「火災時における救助活動対応能力の向上」

近年の建物構造は高气密化、高断熱化、複雑化しており、消防吏員が現場に到着する時に FO（フラッシュオーバー）や BD（バックドラフト）の発生リスクが高まっている中で、活動隊員の安全を確保しつつ、迅速に要救助者を救助することが求められている。

火災救助活動においては、「破壊」「進入」「検索」「救助」の知識、技術が重要であるものの、各消防本部においては様々な火災救助体制をとっており、資機材も多様である。

以上のことから、本救助シンポジウムでは、建物構造に見合った「破壊」「進入」「検索」「救助」について、全国の消防職員と共有することで、今後起こり得る火災時における救助活動能力の向上を図るものとする。

5 参加対象者

消防・救助隊員、消防学校関係者、都道府県消防防災関係者等
※会場内に各企業の救助資機材展示ブースを設置

6 主催

総務省消防庁

7 開催方式

ハイブリッド開催方式（会場及びオンラインの同時開催）

8 次第（予定）

- | | |
|---------------------------------|------------------|
| (1) 開会 | 10:30～10:35 (05) |
| 消防庁長官 挨拶 | |
| (2) 来賓祝辞 | 10:35～10:40 (05) |
| 全国消防長会会長 | |
| (3) 基調講演 | 10:40～11:20 (40) |
| ※講演者調整中 | |
| (4) 事例研究発表 1、2 | 11:30～12:10 (40) |
| ※2事例：各発表 15 分、各質疑応答 5 分 | |
| (5) 事例研究発表 3、4 | 12:15～12:55 (40) |
| ※2事例 | |
| (6) 特別報告 | 13:55～14:35 (40) |
| ※報告者調整中 | |
| (7) 事例研究発表 5、6 | 14:40～15:20 (40) |
| ※2事例 | |
| (8) 事例研究発表 7、8 | 15:30～16:10 (40) |
| ※2事例 | |
| (9) 総合討論 | 16:15～16:55 (40) |
| 講演者、特別報告者、事例研究発表者によるパネルディスカッション | |
| (10) 閉会 | 16:55～17:00 (05) |
| 消防庁国民保護・防災部参事官 挨拶 | |

9 参加申込み

(1) 申込方法

都道府県担当者が会場参加及びオンライン参加の希望者を取りまとめ、別紙 1「参加希望調査表」に必要事項を記入の上、令和7年9月12日（金）までに下記のアドレスへ電子メールで申し込んでください。

※会場参加者数には制限があるため、希望者多数の場合は参加者数を調整します。会場参加から漏れた場合、オンライン参加に振り替えます。

※1つの端末から大画面に投影し、複数人で視聴することも可能です。その場合、オンライン参加希望回線数1として計上してください。

(2) 参加費用

無料（旅費・通信費等については、参加者側の負担となります。）

(3) その他

11月下旬に「プログラム」及び「入場整理券」をメール等で送付する予定です。（当日は、入場整理券を持参している方のみ入場可能です。）

10 事例研究の募集

(1) 募集する事例

建物火災時における救助活動に関する以下のカテゴリーの事例研究を募集します。

なお、建物火災による建物形状は限定しません。

（例：一般建物、共同住宅、高層建物、工場、複合用途防火対象物等）

ア 実災害での活動事例・課題と改善策

イ 開口部作成に伴う破壊・非破壊活動に関する効果的な手技や事例及び安全管理に関する取組み

ウ 屋内進入及び検索救助に関する効果的な手技や事例及び安全管理に関する取組み

（例：検索資機材、検索方法、信号方法、自己確保方法等の検証結果）

エ 救助方法に関する効果的な手技や事例及び安全管理に関する取組み

（例：要救助者の搬送方法、屋内残留隊の判断、RIT等の検証結果や奏功事例）

オ 上記の他、全国の消防本部に共有することで、災害対応能力の向上に資する事例研究

(2) 発表方法及び発表時間

パソコン等を使用し、おおむね15分間以内で発表をお願いします。パソコン等は総務省消防庁で準備します。

事例研究発表を充実させるため、消防本部紹介は最小限とし、抄録・記録集に掲載する形式とします。

(3) 応募方法

ア 都道府県担当者が事例研究発表希望者を取りまとめ、調査表様式 別紙2 「事例研究発表調査表」、別紙3 「事例研究発表原稿様式」に必要事項を記入の上、令和7年9月26日（金）までに下記のアドレスへ電子メールで応募してください。

イ 発表希望者がいない都道府県についても、その旨を御連絡ください。

ウ 記載例を必ず御参照の上、ご応募ください。

エ 都道府県担当者が発表希望者を取りまとめる際に、発表希望者の把握漏れ

がないように注意してください。

オ ファイル容量が大きく送信できない場合は、以下の問い合わせ先まで御連絡ください。

(4) 事例研究発表者の決定

原稿を受領後、総務省消防庁において事例研究発表者を選考し、10月下旬頃に結果をお知らせするとともに、当日の発表資料の作成及び提出を依頼します。

なお、選出されなかった事例研究については、本シンポジウムの記録集に掲載する予定です。ただし、テーマに沿っていないもの等は掲載を省略します。

(5) その他

ア 発表者1名までの旅費等については、総務省消防庁で負担します。(発表補助者については、自己負担となります。)

イ 事例研究発表者は開催日の前日(令和7年12月10日(水))にリハーサルを実施予定です。

ウ 発表に使用するパソコンは総務省消防庁で準備します。

応募・問い合わせ先
消防庁国民保護・防災部参事官付救助係
井上事務官
TEL: 03-5253-7507
E-mail: fdma.kyuujo@soumu.go.jp

別紙1「参加希望調査表」

テーマ「火災時における救助活動対応能力の向上」

都道府県名		
担 当 者 連 絡 先	部署名	
	氏名	
	電話番号	
	メールアドレス	

■「会場参加希望人数」「オンライン参加希望回線数」「オンライン視聴予定人数」を記載してください。

※会場参加希望者多数の場合、消防庁で人数調整を行います。

会場参加から漏れた場合は、オンライン参加へ振り替えます。

※1つの端末から大画面に投影し、複数人で視聴することも可能です。

その場合、オンライン参加希望回線数1として計上してください。

※オンライン視聴予定人数は概算人数で構いません。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

	消防関係機関名	会場参加 希望人数	オンライン 希望回線数	オンライン 視聴予定人数
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
合計		0	0	0

別紙1 「参加希望調査表」 (記入例)

テーマ「火災時における救助活動対応能力の向上」

都道府県名		東京都
担当者 連絡 先	部署名	防災危機管理課
	氏名	東京 太郎
	電話番号	03-5253-0000
	メールアドレス	0000@tokyo.jp

■「会場参加希望人数」「オンライン参加希望回線数」「オンライン視聴予定人数」を記載してください。

※会場参加希望者多数の場合、消防庁で人数調整を行います。

会場参加から漏れた場合は、オンライン参加へ振り替えます。

※1つの端末から大画面に投影し、複数人で視聴することも可能です。

その場合、オンライン参加希望回線数1として計上してください。

※オンライン視聴予定人数は概算人数で構いません。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

	消防関係機関名	会場参加 希望人数	オンライン 希望回線数	オンライン 視聴予定人数
1	霞が関消防本部	0	5	50
2	丸の内消防局	1	10	100
3	東京都防災危機管理課	1	1	1
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
	合計	2	16	151

別紙2 「事例研究発表調査表」

テーマ「火災時における救助活動対応能力の向上」

都道府県名		
消防本部・消防学校名		
所属		
階級		
ふりがな		
氏名		
連絡先	住所	〒
	電話番号	
発表演題		
募集カテゴリー		
PC使用(パワーポイント)		有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>

事務担当者	所属名	
	役職または階級	
	ふりがな	
	氏名	
	電話番号	
	メールアドレス	

別紙2 「事例研究発表調査表」(記載例)

テーマ「火災時における救助活動対応能力の向上」

都道府県名	東京都	
消防本部・消防学校名	霞ヶ関消防本部	
所属	霞ヶ関消防署	
階級	消防士長	
ふりがな	きゅうじょ ぜんた	
氏名	救助 全太	
連絡先	住所	〒100-8927 東京都千代田区霞が関2-1-2
	電話番号	03-5253-0000
発表演題	○○○○	
募集カテゴリー	ア 実災害での活動事例・課題と改善策	
PC使用(パワーポイント)	有 ・ 無	

事務担当者	所属名	霞ヶ関消防本部 警防課
	役職または階級	消防司令補
	ふりがな	ひびや まるまる
	氏名	日比谷 ○○
	電話番号	03-5253-0000
	メールアドレス	○○○○@soumu.go.jp

演題は、14ポイント

「○○○○○○○○○○○○○○○○ (演題名)」

×

×

1行空ける。

霞ヶ関消防局
消防司令補 霞 太郎

(本文) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

現職

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

職歴

平成○年 ○月 霞ヶ関消防局採用

令和○年 ○月 現職

本文末尾に記載。

留意事項

- 1 使用ソフト 「MS-Word」
- 2 基本書式
 - (1) 用紙 A4 縦・横書き
 - (2) 文字 文字数 40・行数 40
 - (3) 余白 上 25mm・下 20mm・左右 20mm
 - (4) 字体 明朝体・12ポイント
- 3 記載上の留意点
 - (1) 演題名は第1行目の中央とし、1行あけて所属・氏名等を書いてください。また、演題名の文字サイズは14ポイントとしてください。
 - (2) 本文中に、図表や写真を適宜用いることは支障ありません。なお、写真等を掲載する場合は、個人のプライバシー保護等に十分注意してください。
 - (3) 本文の末尾に「現職」及び簡単な「職歴」を書いてください。
 - (4) 8ページ以内で論理的にまとめることとし、以下について記載してください。
 - ア 概要（災害、活動、取り組み等）
 - イ 推奨・検討事項
 - ウ 推奨・検討事項を踏まえた改善策及び教訓（他消防本部に共有すべきこと）